

「真実に目を向ける:

福島が問いかける未来への選択を、いわき市から考える」

いわき市生涯学習プラザ+ ZOOMによるハイブリッド

“あのとき何が起こっていたのか?  
(ヨウ素剤が配布された三春から)

まとめ(今後の対応等)

後藤 忍

福島大学 大学院 共生システム理工学研究科 教授／  
原子力市民委員会 福島原発事故部会(第1部会) 部会長

E-mail: a067@ipc.fukushima-u.ac.jp

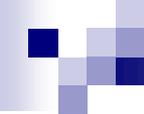
# まとめ

- 福島第一原発事故後に国や福島県から安定ヨウ素剤の服用に関する指示が適切に行われなかったことは、重要な教訓の一つである。
- 三春町での安定ヨウ素剤の配布と服用指示は、地方自治体としての主体性と決定権を行使して、住民の命と健康を守ることを最優先に考えて行動したもので、放射線防護の民主化の観点からも後世に継承すべき事例である。
- ICRPのPublication 146, 文部科学省の放射線副読本, 福島県教育委員会の資料, 震災伝承施設の「コミュタン福島」や東日本大震災・原子力災害伝承館の展示などでは、安定ヨウ素剤に関する記録・説明が不十分である。
- 三春町での安定ヨウ素剤の配布と服用指示に関する事実と教訓の継承が求められる。

# 今後の対応等

- ① 三春町での安定ヨウ素剤配布に関するパネルのPDF版の公開
  - パネルのPDFデータに必要な修正(例:写真の更新,子どもに配慮したルビ振り)を行い,ウェブサイトで公開する。
  - ウェブサイト:モニタリングポストの継続配置を求める会・三春,原子力市民委員会
- ② 冊子の発行
  - パネルの公開用のPDFデータを基本とし,冊子を発行する。
  - 福島県内の公立図書館や小・中学校図書室,国会図書館などへ寄贈する。
  - 発行:「風しもの村 風しもの町実行委員会」,協力:原子力市民委員会
- ③ 他の地域でのパネル展の開催
  - 甲状腺がん支援グループあじさいの会のイベント:2024年9月29日(日),郡山市ビッグパレット
  - 第2回放射線防護の民主化フォーラム:2024年11月3日(日),4日(月・祝),いわき市生涯学習プラザ

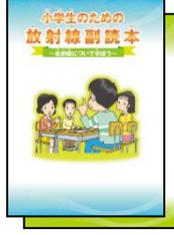
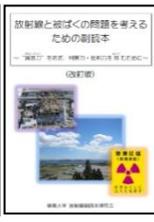
⇒**原発の再稼働等が進められている日本の現状も踏まえて,必要な対応やアイデアなどを議論したい。**



■ 補足：

“減思力”の教訓を学ぶためのパネル展

# 原子力・放射線に関する教材等の作成

発行主体	年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2021
国(文部科学省) (※2010年は経済産業省資源エネルギー庁と共同)		2010年2月 	2011年10月 			2014年2月 				2018年9月 	2021年10月 	
福島県教育委員会			2011年11月 	2012年8月 		2014年3月 	2015年3月 	2016年3月 	2017年3月 		2019年3月 	
福島県教職員組合 (※2012年の書籍版は科学技術問題研究会と共著)				2012年7月 	2012年10月 							2021年12月 
福島大学放射線副読本研究会 (※2021年のパネル展は後藤研単独)				2012年3月 	2012年6月 	2013年3月 						2021年12月 

2011年3月 東京電力福島第一原子力発電所の事故の発生

# 教訓とは

## ■ 広辞苑（第六版）

□ 「教えさとすこと。また、その言葉。」

## ■ 後藤の着眼点

□ “減思力（げんしりよく）”の教訓

“減思力”とは、偏重した教育・広報により、原子力発電の環境リスク等に関する国民の公正な判断力が低下させられてきたさまを教訓として表す造語。

目の前から消されたものにこそ  
真に学ぶべき教訓がある

## ■ 原田正純さんの言葉(2011)

□ 「教訓っていうのは、そもそも何を失敗したのかということを発信することです。反省なしに発信は無理だ。」



2009年度（第16回）  
原子力ポスターコンクール  
入選 子ども部門（11歳 福島県）



原田正純元医師（1934-2012） 6

# “減思力”の教訓を学ぶためのパネル展

## ■ パネル展の目的

- 福島第一原発事故前後における主な原子力・放射線教材等を振り返ることで、“減思力”の教訓について記録し、考え、伝える。

年	期間	開催地／会場	主催団体等
2021	12月3日(金)～12月5日(日)	福島県福島市／コラッセふくしま 1階 アトリウム	福島大学環境計画研究室
	12月10日(金)～12月12日(日)	福島県いわき市／いわき・ら・ら・ミュウ 2階 ライブいわきミュウじあむ	福島大学環境計画研究室
2022	5月27日(金)～5月29日(日)	福島県白河市／マイタウン白河 ※同市内の別会場で8月21日(日)まで継続	NPO法人 原発災害情報センター
	11月5日(土)～11月6日(日)	東京都武蔵野市／武蔵野芸能劇場(小ホール)	さよなら原発！三鷹アクション
2023	1月21日(土)	福島県いわき市／いわき湯本温泉「古滝屋」	公害資料館ネットワーク
	7月28日(金)～7月30日(日)	福岡県粕谷町／サンレイクかすや	エネルギーの未来を考える会
	10月24日(火)～10月29日(日)	佐賀県佐賀市／佐賀市立図書館	今を生きる会、玄海原発と全基をみんなで止める裁判の会
	11月3日(金・祝)～11月4日(土)	福島県福島市／福島テルサ	慶應義塾大学濱岡豊研究室
	12月16日(土)～12月17日(日)	福島県福島市／福島大学	公害資料館ネットワーク、公害資料館連携フォーラム in 福島実行委員会
2024	8月10日(土)～8月13日(火)	福島県三春町／三春町交流館「まほら」	「風しもの村・風しもの町」実行委員会
	11月3日(日)～11月4日(月・祝)	福島県いわき市／いわき市生涯学習プラザ	放射線防護の民主化フォーラム

# “減思力” パネルの構成

パネルはA1サイズ(59.4cm × 84.1cm) **23枚** (※2022年以降は1枚追加して**24枚**)

公的機関の教材  
等を中心とする

内容 【パネル枚数】	副読本関連の内容	副読本以外の内容
はじめに 【3枚】	・原子力・放射線副読本についての説明	・表紙 ・パネル展を行う背景と目的
福島第一原発事 故前の教材等 【8枚】	・2010年版副読本(文部科学省・経済産 業省資源エネルギー庁)	・2010年版資料(経済産業省資源エネルギー庁) ・津波の高さの教訓 ・原子力ポスターコンクール(文部科学省・経済産 業省資源エネルギー庁)
福島第一原発事 故後の教材等 【10枚 <b>【11枚】</b> 】	・2011年版副読本(文部科学省) ・2014年版副読本(文部科学省) ・2018年版副読本(文部科学省) <b>【・2021年版副読本(文部科学省)】</b>	・東日本大震災・原子力災害伝承館の展示内容
その他【1枚】	—	・後藤忍・環境計画研究室の取り組み
おわりに【1枚】	—	・パネル展を通して伝えたかったこと
【計23枚 <b>【24枚】</b> 】	—	—

(※**【 】**は2022年に1枚追加した後のパネルの枚数と内容)

## ■ その他

- アンケート回答時の参考とするため、「パネル一覧」をA1用紙3枚で掲示した。
- パネルの他に、閲覧用として副読本等のコピーを展示した。

# 作成したパネルの例

## 例：2010年版副読本(小学生用)①

### 方針

事実として指摘できる副読本の記述の**誤りや、明確な偏り**に該当する部分を指摘する。

### 工夫

偏りが分かりやすい部分の解説を布で隠し、来場者にめくってもらおう。

“**減思力**”の教訓を重視して**思考してもら**うため、また、**飽きさせない**ため。

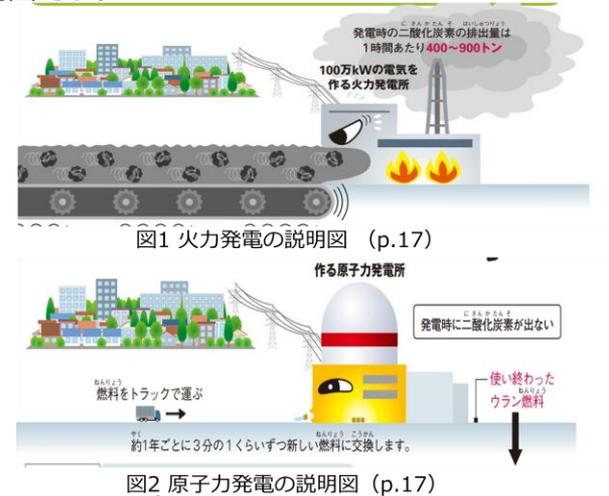
## 4 2010年版副読本(小学生用)①

- ・教材名：わくわく原子カランド
- ・発行主体：文部科学省・経済産業省資源エネルギー庁
- ・発行年月：2010年2月
- ・備考：福島第一原発事故後に回収



### 記述例：火力発電と原子力発電の比較

下の2枚の絵は、図1が火力発電の説明図で、図2が原子力発電の説明図です。



2つの図を比較して説明内容の特徴を考えてみてください。(めくると解説例が書かれています。)

